

河口域だけのマハゼ

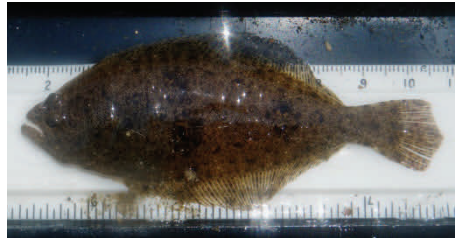
■今年初めて観察されたマハゼ

震災前の蒲生干潟はハゼ釣りの名所であったが、今年の調査では1匹も採集することはなかった。しかし、今回の調査で13匹のマハゼを採集することができた (Fig. 1)。ただし、採集したのは七北田川河口域のみで、干潟内では採集することができなかった。

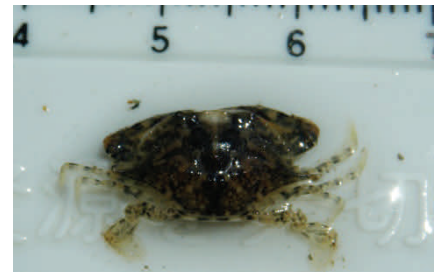
河口域では他に、クロダイ、クサフグ、ボラ、メナダ、ヒメハゼ、成長したヒラメ (Fig. 2) が採集された。また昨年同様ガザミの稚ガニ (Fig. 3) も確認できた。なお、イシガレイの稚魚は4匹しか採集できず (干潟内では0匹) 多くのイシガレイは外海へ移動したのではないかと考えられる。



(Fig.1 マハゼ)



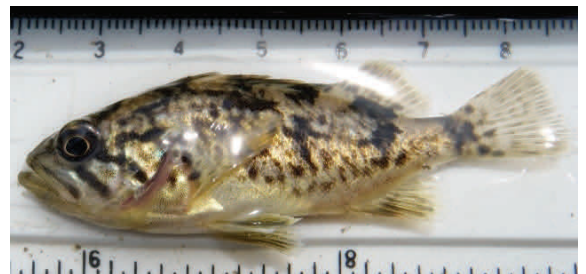
(Fig.2 ヒラメ)



(Fig.3 ガザミ)

■干潟内の生物

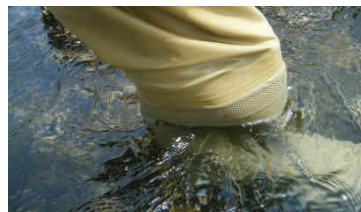
今回の調査では初めてクロソイを採集した (Fig. 4)。しかし干潟内で採集できた魚類は他にヒメハゼ、ボラ、マルタウグイが少数で先月同様、河口域と比較して種類・個体数とも少ない状態であった。調査した8月10日の仙台の満潮は14時06分である。Fig. 5, 6は満潮の30分ほど前の導流堤の写真であるが、水が出入りする部分の水深は30cmを切る程度である。震災前の水門が存在した状態 (Fig. 7) と比べると水の出入りが不十分であると考えられる。また、この水深ではハゼやカレイなどの海底に生息する魚類の出入りも少ないのではないかと推測される。なお、遊泳脚を持ち海中を泳ぐガザミ (Fig. 8) やイシガニ (Fig. 9) は干潟内で採集された。



(Fig.4 クロソイ)



(Fig.5 導流堤の水が出入りする部分)



(Fig.6 Fig.5の水深)



(Fig.7 震災前の水門)



(Fig.8 ガザミ)



(Fig.9 イシガニ)

→ 遊泳脚